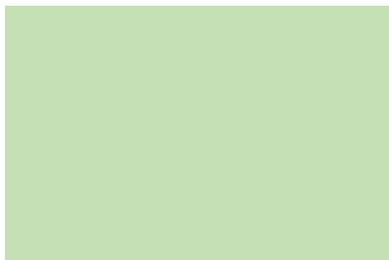
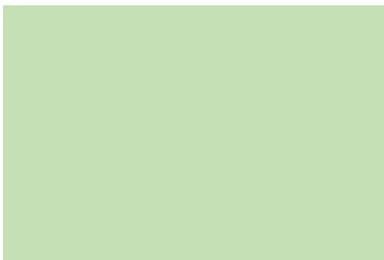


# 学生向け推薦図書リスト 2018



白金キャンパスの先生方がお薦めする図書  
学術書はもちろん、ビジネス書、実用書まで  
バラエティー豊かな図書が集まりました

**北里大学 白金図書館**

## 【薬学部】

### 1) 生体分子解析学 本間浩先生

#### 1. 「くすり・軟膏・毒物：薬学の歴史」

イヴァン・ブローアール監修，日仏薬学会・日本薬史学会誌，薬事日報社  
請求記号：499.02/Ka19



#### <出版社紹介文>

古代メソポタミアの時代から 20 世紀の現代までの、薬屋が薬剤師に至る歴史、素朴な治療薬が洗練された現代的な医薬品に変わりゆく歴史、そして錬金術師たちの活躍の歴史、様々な学説の変遷の歴史、薬理学と毒物学の誕生の歴史などを著名な科学者と歴史家が記述した歴史書。

パリ・デカルト大学薬学・生物学部やフランスで最大の医学・薬学関係の蔵書を誇るパリ大学共同保健衛生図書館に所蔵された貴重な学術的・芸術的遺産である色鮮やかな絵画、医療器具などを多数掲載し、画集として楽しむこともできる一冊。

### 2) 社会薬学部門 鈴木順子先生

#### 1. 「闘うナイチンゲール」

徳永哲著，花乱社  
請求記号：289.3/N71t



#### <先生コメント>

医療プロフェッショナルとしての自分の確立に役立つ。

#### <出版社紹介文>

「天使とは、美しい花を撒き散らす者でなく、苦悩する者のために闘う者である」(ナイチンゲール)

19世紀イギリス社会の中、最前線の軍事病院にて感染した回帰性の熱病に苦しみながらも、歪んだ体制や制度、社会通念や差別・偏見と闘いつづけ、自己の信念を貫き通した生涯を追う。

その思想の核心に迫った画期的なナイチンゲール論。

## 2. 「脳科学の教科書 ころ編」

理化学研究所脳科学総合センター編，岩波書店  
請求記号：491.371/R41/v.1



<先生コメント>

医療プロフェッショナルとしての自分の確立に役立つ。

<出版社紹介文>

ころと脳のはたらきとは、どんな関係にあるのでしょうか?また、脳のどこで、どんな感情が生みだされるのでしょうか?

ヒトに特有の抽象的世界をつくりだすことばは、どこで生みだされるのでしょうか?それらについてわかっていること、さらに脳機能を調べる手段としての画像法、神経疾患・精神疾患と脳とのかかわりも解説します。

## 3. 「脳科学の教科書 神経編」

理化学研究所脳科学総合センター編，岩波書店  
請求記号：491.371/R41/v.2



<先生コメント>

医療プロフェッショナルとしての自分の確立に役立つ。

<出版社紹介文>

脳で人間のすべてがわかる!?テレビを観ているとそんな気がしてきますが、本当のところ、どこまでが解明され、なにが謎のままなののでしょうか。たしかな入門書を読んで、正しい知識を得、自分で考える力を身につけま

せんか。

ちまたの情報のウソ・ホントや、最近の研究成果を解説するコラムもついて、読み応え満点です。

### 3) 薬用植物園 古平栄一先生

#### 1. 「生薬単 改定第3版」

原島広至著, 丸善雄松堂

請求記号: 499.8/H32s/3ed



<先生コメント>

日本薬局方 17 改正から新たに収載された生薬基原植物までも網羅し、ビジュアルで分かりやすく解説。

#### 2. 「総天然色世界の漢方生薬図譜」

松田秀秋編集, 京都廣川書店

請求記号: 499.8/Ma74



<先生コメント>

生薬の美しい写真に加え、収穫期や収治など、これまでの他の文献には記載されていない情報が満載。

生薬が疾患別に配列されている点も特徴的。

### 4) 医薬品情報学 岩澤真紀子先生

#### 1. 「新版 日本語の作文技術」

本多勝一著, 朝日文庫

請求記号: 816/H84



<先生コメント>

修飾の順序、句読点のうちかた、助詞の使い方など、読み手に分かり易い日本語を書くスキルがよくまとまっている。

## 2. 「わかりやすく〈伝える〉技術」

池上彰著，講談社現代新書

請求記号：407/I33w



<先生コメント>

プレゼンテーションのスキル向上に役立つ

## 3. 「入社1年目の教科書」

岩瀬大輔著，ダイヤモンド社

請求記号：L/I4



<先生コメント>

学生から社会人に立場が変わる際に、就職先で気を付けるべきことが学べる。

就職活動でも役立つ。

## 4. 「チーズはどこへ消えた?」

スペンサー・ジョンソン著，門田美鈴訳，扶桑社

請求記号：L/J2



<先生コメント>

状況の変化にいかに対応すべきかを説く世界的ベストセラー。海外の有名企業の社員教育でも活用されている。

## 5) 薬物治療学 IV 安藤航先生

### 1. 「Excel & Access 連携 実践ガイド：仕事の現場で即使える」

今村ゆうこ著，技術評論社

請求記号：L/I3



<先生コメント>

臨床研究では大量のデータを解析しなければなりません。そのデータの入力や管理には Excel がよく使われますが、データ数によっては気の遠くなる作業になる事も珍しくありません。

本書では、データベース作成ソフトの Access を Excel と連携させる手法について書かれています。研究の効率化に活かして貰えればと思います。

### 2. 「コード理論大全」

清水響著，リットーミュージック

請求記号：L/S9



<先生コメント>

音楽は理論的で、解析すればするほど化合物のように思えてきます。ピアノやギターなどで音を出すことができるけれど、その音の構成や前後とのつながりを意識したことはありますか？

本書ではより理論的に、そして練習問題を通して、音楽の理解を深めることができます。

## 6) 生物分子設計学 森義治先生

### 1. 「新版 論文の教室」

戸田山和久著, NHK 出版

請求記号 : 816.5/To17



<先生コメント>

レポートや論文の書き方についての本は、例えば『理科系の作文技術』が有名ですが、この本はもう少し基本のところからはじめています。

レポートや論文を書かなければならないけれども、書き方が分からないときによい本だと思います。

## 7) 臨床基礎薬学 友田吉則先生

### 1. 「すべては「前向き質問」でうまくいく」 (旧書名「質問思考の技術」)

マリリー・G・アダムス著, 鈴木義幸監修, Discover

請求記号 : L/A2



<先生コメント>

忙しい・やるが多すぎる…。

ストレスフルな環境下、自分の目指すべき Goal を見失いそうな人に。

質問思考によって道が開ける。

## 【生命科学研究所】

### 8) 細菌感染制御学 阿部章夫先生

#### 1. 「読書という荒野」

見城徹著，幻冬舎

請求記号：L/K4



<先生コメント>

幻冬舎を創業した見城徹さんの本、「読書という荒野」がすごいことになってます。学生さんにもオススメします。まず、修士に入ったばかりの学生さんには、「読書という荒野」を読んでから、原著論文を読むことを強くオススメします。

編集者だった見城さんは、「言葉を武器」にして成り上がった人物です。言葉で小説家を口説き抜いて、生きてきた人です。我々の勝負する世界も、言葉（その多くは英語ですが…）で成り立っています。原著論文を出す過程で、エディターに訴求するような言葉を如何に紡いでいくのかも、研究者として生きていく上で重要なファクターとなります。

原著論文を書けない学生さんや若手研究者は、日本語に普段から接していない事に起因していることが、少なくないです。また、就職時期になって、稲盛和夫さんの「生き方」を読むのも、間違ってます。読書はそういうスタンスで対峙するものではありません。

じゃあ、どういうスタンスで読むものなのか？その答えというか、見城さんが「言葉」と格闘してきた修羅場が、「読書という荒野」のなかにあります。

-----以下、「読書という荒野」抜粋-----

人間は「極」をどれだけ経験したかで、度量が決まる。真ん中を歩いている人からは何も生まれてこない。極端を経験してこそ、豊饒な言葉を発することができるのだ。

----略----

僕が考える読書とは、実生活では経験できない「別の世界」の経験をし、他者への想像力を磨くことだ。重要なのは「何が書かれているか」ではなく、「自分がどう感じるか」なのである。

-----  
この本を読んで、感覚が鈍ってきた僕の心にも、言葉がグサグサと突き刺

さってきました。20代の皆さんなら、物凄く感じる部分があるはずですよ。

読書は何かの手段として読むものではなく、作者の世界に没頭し、別世界をリアルに感じて、また現実世界に戻ってくる行為です。

僕は生きていくのが辛かった時期に、読書のなかに救いを求めていたことがあります。研究者は一人称の視点で、研究事象と向き合います。テクニシャンとして北里研究所に就職したときに、ロバート・B・パーカーの「スペンサーシリーズ」は、僕に行動の規範と言うか、タフな環境で生きることの勇気を与えてくれた本です。

ハヤカワ・ミステリー文庫がなかったら、今の僕はなかったでしょう。

## 2. 「人生の勝算」

前田裕二著，幻冬舎

請求記号：L/M2



<先生コメント>

一緒に懸命読んだけど、石原さとみの落とし方については書かれてませんでしたw

まあでも、「当たり前のことを圧倒的なエネルギーでやり続ける」というスタンスは共感できます。写真ではチャライあんちゃんぐらいにしか見えないが、生き様が凄すぎ。落合陽一といい、この前田裕二といい、日本で元気な若者が出てきたのは良いことです。

## 3. 「日本再興戦略」

落合陽一著，幻冬舎

請求記号：L/O1



<先生コメント>

若干31歳にして、ピクシーダストテクノロジーズ株式会社 代表取締役社長、筑波大学 学長補佐などを努め、これからの日本の再興論を熱く語っております。年齢は関係ないという良い見本です。年配の方々には、あの落合信彦の息子と言えば、解りやすいです。学生の皆さんも振り切れた大学生活を送ってください。

## 9) 感染症学 高橋孝先生

### 1. 「最新臨床検査学講座：臨床微生物学」

松本哲哉編，医歯薬出版

請求記号：492.108/R45rc/v.15



<先生コメント>

臨床検査技師を目指す学生の方が臨床微生物学を学習する際、是非、お読み頂きたい図書となります。また、本書は国家試験出題の基本図書としても、多くの学校において採用されております。

### 2. 「感染症の診断って、こんなちょっとしたことで差がついちゃうんですね。」

柳原克紀編，南江堂

請求記号：493.8/Y53



<先生コメント>

本書は、感染症の診療現場に役立つ一冊です。それ故、医学部卒前教育・卒後教育において活用して頂きたい図書となります。

## 10) 微生物制御工学 小松護先生

### 1. 「見えない巨人 微生物」

別府輝彦著，ベレ出版

請求記号：465/B37m



<先生コメント>

蒸した米を酒に、練った小麦粉をパンに変える一方、食べ物を腐らせたり、恐ろしい伝染病を起こしたりするのも微生物。そして、動植物の遺骸や人間が作りだすゴミを分解し、地球と共生しながら地球を回しているのも微生物。では微生物とは一体どんな生き物なのでしょうか？

じつは答えるのが難しいこの問いに対し、本書では、

「見えない」「巨大な」「多様な」という3つの形容詞を鍵にして語ります。そして、その中でも「多様性」について、「発酵する微生物」「病気を起こす微生物」「環境の中の微生物」の3つのトピックに分けて、詳しく解説していきます。

## 【東洋医学総合研究所】

### 11) 薬剤部 高際麻奈未先生

#### 1. 「くすり・軟膏・毒物：薬学の歴史」

イヴァン・ブロアール監修，日仏薬学会・日本薬史学会誌，薬事日報社  
請求記号：499.02/Ka19

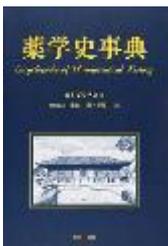


\*内容紹介は p.1 をご覧ください

#### 2. 「薬学史事典」

日本薬史学会編，薬事日報  
請求記号：R 499.02/N71y

<出版社紹介文>



古代から現代に至る日本および外国の薬学・医療の歴史を薬事制度、薬学教育、薬剤師、製薬産業の領域を中心に全255項目にわたって、80名を超える各分野の専門家が分かりやすく解説。

カラー口絵を含む写真も豊富に掲載しており、この一冊で世界の薬史(薬学史)を概観できる。

「薬学の歴史と未来」を学ぶ薬学生にも最適。

2018年8月24日  
北里大学 白金図書館